

第18回 ちゅうでん教育振興助成（平成30年度）

報告書資料 一般 - 33

学校名・団体名	長野市立芋井小学校
コース	学校支援
活動・研究のテーマ	「地元」の学習を深化した異学校（異学年）混合学習

〈活動・研究の意義および活動報告〉

〈活動・研究の意義〉

本校は同敷地に隣接した芋井中学校が平成19年に閉校し、山間地であり児童減少もあり現在全校21名である。隣接T小学校も10kmとかなり遠い。山間地での単独学校のような位置づけであるため、異学校との合同学習が不可欠の状態である。対象学年は本校6年生を中心とした全校、並びに戸隠小学校3年生並びに同じ中学校へ進学する加茂小学校6年生とする。小学校全校という大きな動きを生み出す可能性を含蓄している

〈活動報告〉紙面の関係もあり、概要だけでのせることをご承知頂きたい。

(1) 同一課題での異学年異学校合同学習（T小との合同学習に関わって）

近隣のT小学校と複数回合同学習を行った。次はある回の学級通信からの抜粋である。

T小学校3年生との古道歩き

T小学校3年生と奥社、中社等の古道歩きを行いました。久しぶりということもあり、I小の子どもたちはすごく緊張している様子がうかがわれました。奥社では、3年生と同行した特別支援の子どもたちが、自分で調べてきた奥社にまつわる神様のことを、I小の子どもたちに紹介してくれました。自分たちの手書きの資料をI小の子どもたちに見せ、子どもながらに説明をする姿に新井はすごくいいものやあったかいものを感じました。おひさま学級の子どもの様子からは、I小の子どもたちに「伝えたい」との気持ちがあふれ出ていました。こういう合同学習の仕方もあるんだなあとすごく勉強になりました。またひとつ合同学習について大きな示唆を受けた感じがしました。I小にない学級と合同学習を進めていくことも、子どもたちの視野を広げることに大きな力になると感じました。

(2) 古道に向けたクラスでの学習の深化に関わって

T小との合同学習を含めながら、その前後でのクラス独自での活動を入れた。

(3) 蕎麦学習を通した異学年混合学習

かつては本校の分校であった土地を利用して、地元の支援の元にそば学習を行った。そこでは、そばまき、そばかり、そばはたきを456年合同で行い、自分たちの育てたそばの試食会を全校で行った。

次は学級通信からの抜粋である

そば試食会

分校でそば試食会がありました。自分たちで育てた「そば」の粉を自分たちの手でこね、自分たちで切って「おそば」にしていきました。自分たちで作った「おそば」は、「おいしい」「いいね」といいながら完食してしまいました。



・いつも身近かにあって、よく食べているおそばだけど、実際に自分達でやってみると、最初から作るということでは、おそばはこんなに長い時間や苦労がかかって、ようやく自分の口に入るんだなあと感じました。また、すぐ食べてしまうおそばも、実際にやってみるとたくさんの方がかかわっていて、自分ひとりでは作れないということも分かりました。だから、自分で苦労して作ったおそばは、すごくおいしかったです。きっとI小だから出来る良い体験になったと思います。(児童感想)

・「そば作り」の授業は、とってもいいなあと感じ、いい思い出になりました。そばを育てたり、こねたりする中で、地域の人たちとコミュニケーションできるし、伝統の方法でみんなでそばを作れるからです。私はあまりコミュニケーションをとるのが苦手なので、この「そばづくり」の体験はすごくいいと思っています。一緒にそばをこねたりしていると、そばを通して私達や地域の人たちの「輪」ができてきて、すごくいいなあと思いました。私は来年中学校へ行くけど、今までのそばづくりで感じた「輪」を大切にしていきたいと思いました。(児童感想)

〈子ども達への効果など〉

①T小との合同学習から

規模校で限られた人間関係の中で過ごしているI小児童にとっては、人間関係の中でいい刺激を与えることになった。様々なことを児童は感じてきたが、その本質は児童の次の感想に現れていると感じている。

「2年間交流してすごいなと思った事は、T小は大人数なのに自分の思った事をはっきり言っている所です。なぜかという、私はたくさんの方がいると、合わせてしまおうと自分の思った事を言わない時があるので、自分の意見を言っているT小のみんながすごいと思いました。私もたくさんの方がいる所でしっかり自分の意見を言えるようになりたいと思いました。また、古道について詳しく調べていて、分かりやすく発表してくれてうれしかったし、すごいと思いました。」

②今後の学校の視点から

今回のT小との合同学習は山間地小規模校での連携を探る大きな礎になることも確かなことである。このことは、数年後に訪れる児童少子化、それに伴う学校存続、並びに統廃合における大きなヒントを秘めていることも確かなことである。実際の活動を通して、成果や課題点がでてきた。(紙面の関係で細述しない)

③地元の支援の元のそば学習を通して

地元の資源を有効に活用した、地元の産業である「蕎麦」を栽培した活動について分校にて学校全体で取り組むことにより地域ならび異学年での更なる深化を求めることが成果を感じることができた。

前述した学級通信での児童の感想だけでなく、学校が地域を活用していくためにはどの様に関わりを持てばいいのか、そしてどう活用していけばいいのかを具体的な活動を通して今後の示唆を得ることができた。

今回「ちゅうでん教育振興助成」を頂き、有効に活用させて頂くことにより今後の学習並びに小規模校の今後の展開等に関しての大きな示唆を得ることができました。この場をかりてお礼を述べます。

ありがとうございました。